



**Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム
オンライン招へい（カリコムグループ）の記録
テーマ：持続可能な環境**

1. 概要

【目的】 自国での持続的な環境づくりのための取り組みや制度改善に活かすことを主目的として、本プログラムを実施しました。日本の行政や環境ビジネスの事例を知る他、日本企業と中南米諸国とのつながりを学習し、日本と中南米地域の環境問題への協力関係について考察しました。

【参加者】 行政官・学術関係者・メディア関係者 計 11 名（アンティグア・バーブーダ、ガイアナ、グレナダ、ジャマイカ、スリナム、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、セントルシア、ドミニカ国、トリニダード・トバゴ、ハイチ、バハマ）

* 五十音順

【訪問地】 鹿児島県、東京都、北海道、宮城県、兵庫県

【日程】

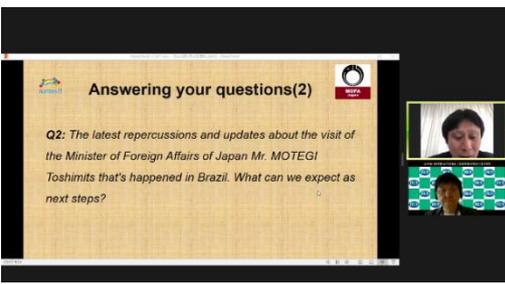
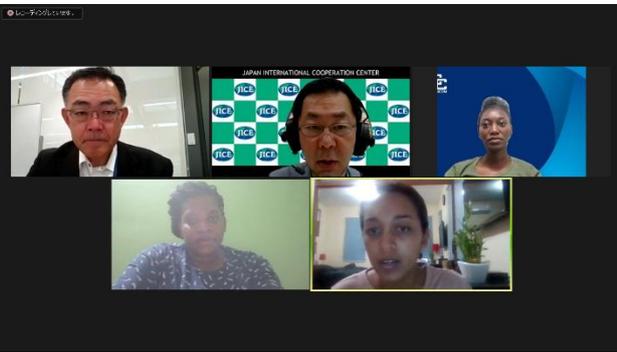
日時 (日本時間) 訪問地	内容	参加者の質問・反応
事前プログラム		
2021 年 3 月から 本プログラム終了 まで	【動画視聴】 1. 事前オリエンテーション 2. 南三陸町からのメッセージ	事前プログラム開催期間前から日本や事前プログラムに関する動画が配信されており、参加者は動画を視聴してから事前プログラムに参加しました。
2021 年 3 月 17 日 (水) 9:00~10:30 鹿児島県	【カリコム諸国・鹿児島県ホストタウン交流】 1. 宇都外務副大臣より挨拶 2. 鹿児島県・奄美群島全体の概要紹介、ホストタウン鹿児島県大崎町、徳之島町、天城町、和泊町、知名町、与論町の紹介 説明者：合同会社 BIROU TABITTO Travel Kagoshima 柿元 理榮氏	参加者からは、「バーチャルツアーを通して、鹿児島県への理解が深まった」「オリンピックのホストタウンを巡るツアーも面白かった」等の声があがり、今後のプログラムへの参加意欲が掻き立てられました。

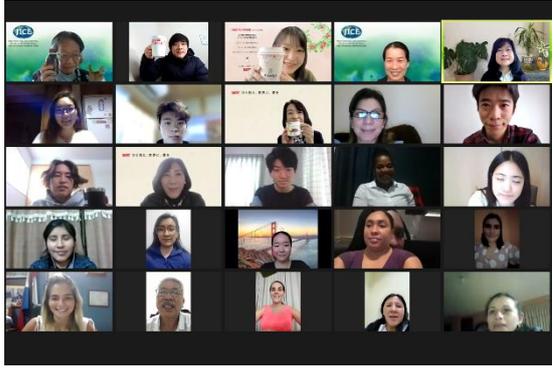
	<ul style="list-style-type: none"> 3. 山元宗与論町長、今井力夫知名町長より挨拶 4. 「海謝美」による与論島での海岸清掃活動の紹介 5. ホストタウン 6 町・海謝美との意見交換会 6. 質疑応答 	
<p>2021 年 3 月 30 日（火） 9:00～9:45 東京都</p>	<p>【ウェビナー・質疑応答】 「日本における中南米外交」 講師：外務省中南米局中米カリブ課長 正本 謙一氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 講義 2. 質問への回答 	<p>参加者からは「日本と中南米地域の友情の絆について考える機会となった」等の声があがり、今後のプログラムへの意欲を新たにしました。</p>
<p>2021 年 5 月 11 日（火） 9:00～10:00 北海道</p>	<p>【日本文化体験】坐禅体験</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 「峯光寺」の紹介、小野隆見副住職の挨拶 2. 仏教や坐禅についてのお話し 3. 坐禅の方法についての説明・実演 4. 参加者の坐禅体験 5. 質疑応答・感想 	<p>住職の身に着けている装束に意味があるかといった質問や、坐禅体験は美しく、日本の文化をより深く知る機会になったといった声が多数ありました。</p>
<p>2021 年 5 月 27 日（木） 9:00～10:45 宮城県 南三陸町</p>	<p>【南三陸町（被災地交流）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 講師の紹介 2. 南三陸町観光協会による南三陸町概要・被災当時の状況についての説明 3. 講師との意見交換会 4. 感想共有 	<p>「被災して、家も友人や家族も何もかもが無くなり、地域から離れ、投げ出したくならなかったのか」といった質問や「『まずは自分の身を守る』という教訓は、自分をはじめ家族や周りの人々、コミュニティを助けることを知って、非常に印象深かった」といった感想がありました。</p>
<p>事前プログラム終了後から本プログラム終了まで (6 月から 8 月までの間に公開)</p>	<p>【動画視聴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 日本理解講義 2. ホームビジット体験 3. 日本文化理解（京都） 4. 広島ピースツアー 5. 愛知の魅力～産業、最先端技術～ 	<p>事前プログラム開催期間終了後から本プログラム開始前までに日本やプログラムに関する動画を配信し、参加者は動画を視聴してから本プログラムに参加しました。</p>
本プログラム		
<p>2022 年 3 月 2 日（水） 9:00～10:30</p>	<p>【オリエンテーション】 【アイスブレイク】 【参加者意見交換】</p>	<p>オリエンテーションにおいて初めて得る情報も伝達され、特に課題に関することでは、どのような切り口で</p>

東京都		いつまでに作成するかなど熱心に質問が出されました。 全体説明後には、グループごとに参加者同士の自己紹介の場が設けられ、参加の動機や日本との関わりなど意見交換が活発になされました。
2022年 3月9日(水) 9:00~11:30 兵庫県	【ウェビナー・質疑応答】 「コーヒーから考えるSDGs」 講師：UCCホールディングス株式会社サステナビリティ推進室 願能 千瑛氏 1. 講義 2. 質疑応答 【日本人学生との交流】 講義の振り返り 【参加者意見交換】 振り返り	SDGs についての知識がなかった参加者にとって、日常的に飲んでいるコーヒーが切り口となった今回の講義はとても興味深いものとなりました。「SDGs を企業目標といかに結び付けているかを知った事がとても印象的」「日本のSDGs 達成度を知り、日本が目標達成に向けて重点を置いている事に刺激を受けた」とのフィードバックがあり、SDGs に向けての日本企業の取組を理解することができました。
2022年 3月10日(木) 9:00~11:30 東京都	【ワークショップ・日本人学生との交流】 1. プレゼンテーションの発表 「日本の魅力や強み、身近にある中南米とのつながり」 2. 感想発表、意見交換 【参加者意見交換】 3. アクション・プラン発表準備	日本人学生の語学力のレベルは高く、通訳を介することなく、プレゼンの間にも、中南米地域からの参加者に対して、直接質問を投げかけ、積極的なコミュニケーションがなされていました。
2022年 3月11日(金) 9:00~10:40 東京都	【ウェビナー・質疑応答、交流】 1. 開会 2. 講義（浮世絵実演、工房見学、浮世絵作品紹介） 「レクチャー『江戸木版画』」 講師：株式会社高橋工房 代表取締役 高橋 由貴子氏 3. グループディスカッション 4. 質疑応答 5. まとめ、講評	浮世絵工房の高橋氏より浮世絵版画誕生の歴史からその発展について講義の後、工房を見学しました。

<p>2022 年 3 月 12 日 (土) 9:00~11:00 東京都</p>	<p>【ワークショップ】 【報告会】 1. 参加者による発表 2. 講評</p>	<p>プログラム参加後 3 か月以内に実施するアクション・プランについてグループごとに発表しました。南米グループ、SICA・キューバグループから発表がありました。</p>
---	--	---

2. 記録写真

<p>事前プログラム</p>	
	
<p>2021 年 3 月 17 日【カリコム諸国・鹿児島県ホストタウン交流】宇都外務副大臣より挨拶</p>	<p>2021 年 3 月 17 日【カリコム諸国・鹿児島県ホストタウン交流】 鹿児島県・奄美群島全体の概要紹介</p>
	
<p>2021 年 3 月 30 日【ウェビナー・質疑応答】 質疑応答の様子</p>	<p>2021 年 5 月 11 日【日本文化体験】 坐禅の方法についての説明・実演</p>
	
<p>2021 年 5 月 27 日【南三陸町（被災地交流）】 講師との意見交換会</p>	<p>2021 年 5 月 27 日【南三陸町（被災地交流）】 講師との意見交換会</p>

本プログラム	
	
<p>2022年3月2日【オリエンテーション】 グループに分かれて自己紹介をする参加者</p>	<p>2022年3月9日【ウェビナー・質疑応答】 コーヒーで乾杯する様子</p>
	
<p>2022年3月10日【ワークショップ・参加者間 交流】グループに分かれて交流している様子</p>	<p>2022年3月11日【ウェビナー・質疑応答、交 流】グループに分かれて一枚の浮世絵を鑑賞 する様子</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ ジャマイカ 社会人

プログラムは魅力的で創造的なものでした。日本が美しいビーチを守るために行っている持続可能な取り組みについて学びました。司会者も参加者も温かく親しみやすく、対話的な会でした。バーチャルツアーを通して、鹿児島県への理解が深まりました。オリンピックのホストタウンを巡るツアーも面白かったです。

◆ パハマ 社会人

事前プログラムは非常に富んだ内容で参考になりました。町と町との間を移動し視察することは創造的で、私はプログラムで夢中になりました。

◆ ドミニカ国 社会人

事前プログラムはとても有益です。日本の中南米地域とカリブ海諸国との協力に関する情報は、両地域の間には存在する友情の絆について理解を深めることができました。

◆ **スリナム 社会人**

事前プログラムはすべての参加者にとって常に有益であると、私は考えています。提供された経験から得られた知識は、日本との相互理解を向上させ、互いの尊重を促進することができます。さらに、事前プログラムを行った後、日本にもっと興味を持つようになりました。

◆ **匿名 社会人**

日常的にコーヒーを飲用しているので、プレゼンを楽しみました。今日のプレゼンは、啓発的でした。コーヒーの生産、UCC の情報には目を見開かされました。

4. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **曹洞宗 峯光寺**

スタッフの事前準備からの説明が丁寧でわかりやすく、大変スムーズに進行できました。

◆ **企業担当者**

講師として登壇させていただきました。同時通訳のセミナーは初めてだったこともあり、大変貴重な経験となりました。このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。進行中も参加者が楽しそうにされている姿も見かけることがあり、そのおかげで私の緊張も緩み有難く思っていました。また、中南米はコーヒーと関わりが深く、そのような国からの参加者やそのような国に興味のある日本の学生から話を直接聞けることができ、とても嬉しく思っております。

◆ **協力団体担当者**

浮世絵を題材にしたグループディスカッションでは、日本人の私たちでは気づかないような視点を知ることができてとても感心しました。また、参加者の皆さんが積極的に講師とコミュニケーションを取っている姿が印象的でした。

◆ **交流先大学生**

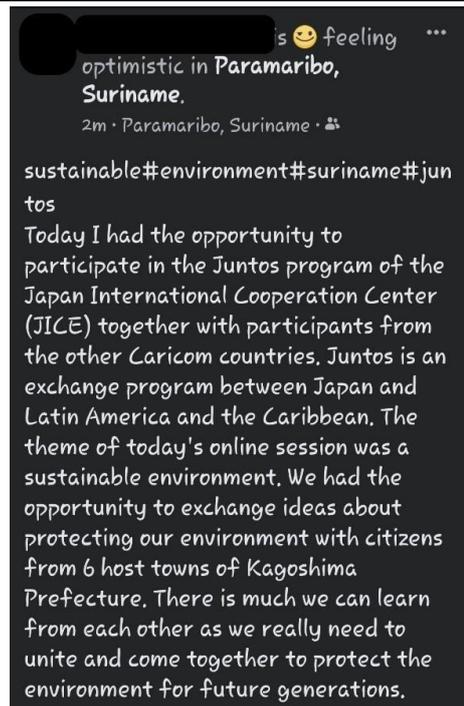
非常に貴重な経験となり、中南米地域の方々とのつながりを更に深めていきたいと思うようになりました。参加して本当に良かったです。

5. 参加者の対外発信、報道記事

Yesterday's Virtual Session held by the Juntos!! Exchange Program between CARICOM and the Kagoshima Prefecture was quite engaging.

Fun Fact: Did you know that Yoron Island, a small island in the south of Japan, has over 60 beaches? Not far from the over 50 public beaches we have here in Jamaica.

#Juntos!! #JICE



2021年3月17日 (Facebook)

昨日行われた Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラムのカリコムと鹿児島県との交流プログラムによるバーチャルセッションは、とても興味深いものでした。

豆知識：日本の南にある小さな島、与論島には60以上のビーチがあることをご存知ですか？ここジャマイカにある50以上の公共のビーチに匹敵する規模です。

2021年3月17日 (Facebook)

本日 Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラムに、カリコム諸国からの参加者と共に参加しました。Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラムは、日本と中南米・カリブ諸国との間の交流プログラムです。本日のオンラインセッションのテーマは「持続可能な環境」でした。鹿児島県の6つのホストタウンの市民の方々と環境保護について意見交換をしました。将来の世代のために環境を守るべく、団結して協力する姿勢に、互いに学ぶことがたくさんありました。

Today the second session of the JICE was held. This is part of the Juntos Exchange Program. In this Webinar session Mr. Masamoto provided a lecture that focused on Japan's diplomacy towards Latin America. The three objectives of Japan's diplomacy are: progress together, lead together, and inspire together. About 2,920 Japanese companies are operating in Latin America and the Nikkei community (Japanese immigrants and their descendants) in Latin American countries is about 2.2 million.

Exchange#Minamisanriku Town#Juntos
 In today's session we had the opportunity to exchange ideas and experiences with people from Minamisanriku town. This town was devastated by a Tsunami in March 2011. In the breakout room session I had the opportunity to speak with Mr. Abe Tadayoshi, a survivor of the Tsunami. One thing that is evident is that in time of disaster people will find a way to coexist and help each other. All countries experience the climate change in their own way. However, we have the ability to innovate, invest, educate and learn from past mistakes.



2021年3月30日 (Facebook)

本日、プログラムの第2セッションが開催されました。これは、Juntos!! 対日理解促進交流プログラムの一環です。今回のウェビナーでは、正本氏が、日本の対中南米外交に焦点を当てた講演を行いました。日本の外交の目的は、「共に歩み、共にリードし、共に感動する」という3つです。ラテンアメリカには約2920社の日本企業が進出しており、ラテンアメリカ諸国の日系人社会(日本人移民とその子孫)は約220万人です。

2021年5月27日 (Facebook)

今日のオンライン・プログラムでは、2011年3月の津波で壊滅的な被害を受けた南三陸町の方々と意見や経験を交換する機会がありました。南三陸町は2011年3月の津波で壊滅的な被害を受けました。分科会では、津波の被害にあった方々とお話をする機会がありました。この交流で学んだことは、災害時には人々は共存し、助け合う方法を見つけるということでした。世界各国が、気候変動を経験しています。しかし、私たちには革新、投資、教育、そして過去の経験から学ぶ能力があります。

2021年3月18日 (奄美新聞社)

東京五輪パラリンピックでホストタウンとなっている県内6町とカリブ共同体(カリコム)諸国が17日、オンラインで交流した。それぞれの町と国の関係者ら約40人が参加。与論島で毎日海岸清掃を

東京五輪・パリのホストタウンがカリブ諸国とオンライン交流

奄美新聞社が主催する「奄美新聞」のオンライン交流イベントの様子。参加者は、東京五輪・パリのホストタウンとカリブ諸国の関係者ら。オンライン上で交流し、互いの国や町が抱える課題について意見交換した。

奄美新聞のオンライン交流イベントの様子

奄美新聞社が主催する「奄美新聞」のオンライン交流イベントの様子。参加者は、東京五輪・パリのホストタウンとカリブ諸国の関係者ら。オンライン上で交流し、互いの国や町が抱える課題について意見交換した。

行っているボランティア団体「海謝美(うんじゃみ)」のメンバーが活動内容を発表し、お互いの国や町が抱える課題について意見交換した。

外務省が推進する国際交流事業「Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム」の一環。日本国際協力センターが主催した。

交流会に参加した大崎町、徳之島町、天城町、和泊町、知名町、与論町の6町は、カリコム(全14カ国1地域)に加盟するトリニダード・トバゴ、セントビンセント及びグレナディーン諸島、セントクリストファー・ネイビス、ドミニカ国、グレナダ、アンティグア・バーブーダのホストタウンとなっている。

(中略)与論町のボランティア団体「海謝美」のメンバーは、島にはいくつの浜があるのか、島内の全ての海岸を清掃するのにかかる日数、どの国のゴミが最も多く漂着しているのか—など九つのクイズを出題しながら活動内容を説明。「若者と協力して島の文化であるこの活動を継承していきたい」と抱負を語り、「環境問題を考えるためにも私たちと一緒にゴミ拾いをしよう」と呼び掛けた。

意見交換でアンティグア・バーブーダのカーボンさん(25)は「私の国にもきれいなビーチがたくさんあるが、ゴミで汚れているのが現状。ゴミ袋の数や清掃するボランティアの数が足りない。与論島のようにボランティアを集めてきれいにしていきたい」と話した。

奄美新聞のオンライン交流イベントの様子

奄美新聞社が主催する「奄美新聞」のオンライン交流イベントの様子。参加者は、東京五輪・パリのホストタウンとカリブ諸国の関係者ら。オンライン上で交流し、互いの国や町が抱える課題について意見交換した。

2021年3月18日(南海日日新聞)

東京五輪パラリンピックでホストタウンの覚書を交わしているカリブ共同体諸国と県内自治体のオンライン交流が、17日行われた。奄美から徳之島、天城、和泊、知名、与論の5町が参加し、各地域の自然環境や文化などを紹介して相互理解を深めた。

(中略)今回のオンライン交流は、外務省から委託を受けた日本国際協力センターが企画し、県内から徳之島、与論など奄美の5町と大崎町が、カリブ共同体諸国からはセントクリストファー・ネイビス

とグレナダ、アンティグア・バーブーダの外交官らが参加した。

交流では、県内でインバウンド(訪日外国人旅行者)向けのツアーなどを実施している合同会社 BIROU の担当者が、各地域の自然や文化、産業などを紹介。この後、徳之島町職員で唄者の澤愛香さんが「ワイド節」を披露して地元の芸能の魅力もPRしたほか、与論島で海岸のごみ拾い活動に取り組んでいる民間団体「海謝美」(阿多尚志会長)の活動報告もあった。

カリブ共同体諸国の外交官や行政官からも「直接会えることを楽しみにしている」「今後の交流も有意義なものにしたい」などとメッセージを送り、交流を深めた。

海謝美の最高齢会員の大山文子さん(85)は「オンライン交流は初めて。カリブの人たちを身近に感じられてよかった。オリンピックのときにもチャンスがあれば、交流したい」と話していた。



2021年3月19日 | I LOVE TRINI NET(トリニダード・トバゴ情報サイト)

3月17日(水)(カリコム諸国現地時間: 3月16日(火))に、Juntos!! 中南米対日理解促進交流のプレプログラム(オンラインによる事前プログラム)として、カリコム諸国と鹿児島県のホストタウン交流が実施された。I LOVE TRINIは毎年カリコム若手外交官の来日レセプションに招待いただいている経緯があり、このオンラインプログラムを拝聴した。

(中略)プログラムの内容としては、鹿児島県にあるホストタウン 6 町、大崎町、天城町、徳之島町、和泊町、知名町、与論町での生活や市民活動について理解を深め、またカリコム諸国の参加者の皆さんの自国と、日本の地方自治体との交流の歴史や東京オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウン地域の魅力を学ぶと共に、今回のオンライン交流を契機とした更なる相互交流の活性化について考えるという会であった。

■ 2021年6月14日

「Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム」実施レポート

■ 実施概要

【団体】 外務省が推進し、JICE（一般財団法人日本国際協力センター）が実施する「Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム」参加者の皆様
【日時】 2021年5月27日 9:00~10:45
【人数】 47名

■ Juntos!!リアルタイム交流会の様子

南三陸町では、日本国内にかかわらず、海外の方々とも交流を行い、多くの縁を繋いできました。

今回、一般財団法人日本国際協力センター（以下JICE）様主催の下、中南米にお住まいの方々と南三陸町の復興の担い手たちが、ZOOMを使ったリアルタイム交流会を行いました。

初めに一般社団法人南三陸町観光協会事務局長の及川より、南三陸町の概要をご説明しました。英語に翻訳したデータや写真を共有し、南三陸町の震災時の状況や復興の様子をお伝えしました。



その後、10グループに分かれて交流を行いました。今回、南三陸町の講師として参加されたのは行政、観光、福祉など、それぞれの分野で活躍されている10名の方々。講師の方から、自身の震災時の経験や現在行っている活動について説明していただいたから、意見交換に入りました。

2021年6月14日 南三陸町観光協会

（中略）JICE 様主催の交流会に参加された方々は、中南米で行政や教育、報道に携わる方々です。そのため、南三陸町での防災対策や行政の取り組みに対して、自分の国にはどう生かせるか、という視点でお話を聞いている様子でした。

震災当時、南三陸副町長を務めていた遠藤健治さんのグループでは、防災についての意見交換が行われました。町の職員として被災者の対応や復旧に携わってきた遠藤さん。南三陸町は1960年のチリ地震の津波を経験したことから、行政はかなり高い水準の防災対策を講じてきたそうです。しかし、東日本大震災では、想定していた高さをはるかに越える津波がきたことから、自然災害というのは予想外のことが起きるものなのだと感じた、と語りました。

その話を受けて、「コスタリカでも津波が起きることがある。津波が起きた時のために、行政が働きかけられることはなんだろうか」という質問が出ました。それに対し遠藤さんは、ハザードマップなどを用いてエリアの災害リスクを市民へ周知することが大切だ、と答えます。行政の力では防げないことも多くあり、行政が被災することもある、住民全員が自分の住んでいる災害リスクを把握し、自分の命は自分で守るように意識を持つことが大切だと、遠藤さんは感じたそうです。

他にも質問は、「防災メッセージを普及するためにどのような技術を使用しているか」など具体的な分野に及び、時間いっぱいまで活発な意見交換が行われました。

参加した方からは、「被災地の方々の経験を聞いてとても感動し、多くのモチベーションを得ることができた」「コロナ禍のために対面での交流はできなかったが、震災後、生きている人たちとつながり、お互いの体験を語るだけで、団結する力や絆が強まり、共感する心が生まれるものだと感じた」等の感想をいただきました。

2022年3月18日（神戸新聞）

UCCホールディングス（HD、神戸市中央区）は、コーヒーを通じたSDGs（持続可能な開発目標）に関わる活動を身近に感じてもらうと、学生向けのオンラインセミナーに力を入れている。業界の取り組みを発信し、次世代を担う若者に理解を深めてもらう狙い。（中略）9日には、日本国際協力センター（JICE）が外務省から受託した国際交流事業のプログラムとして実施。英語とスペイン語の同時通訳があり、日本の学生に加え、中南米7カ国の外務省職員やメディア関係者ら25人が参加した。

同社の願能千瑛さん（31）がコーヒーの一般知識のほか、生産国の貧困解決や環境問題への取り組みをクイズや動画を交えて紹介。「今後もコーヒー産業の発展に貢献し、世界を笑顔にしたい」とアピールした。参加者は、質問や現地のコーヒー栽培事情の報告、感想などを述べ合った。

学生向けSDGs講座 UCCが業界の取り組み発信



国内外から参加があったオンラインセミナー＝神戸市中央区港島中町7、UCCホールディングス

UCCホールディングス（HD）は、神戸市中央区に本社を置く。SDGs（持続可能な開発目標）に関わる活動を身近に感じてもらうと、学生向けのオンラインセミナーに力を入れている。業界の取り組みを発信し、次世代を担う若者に理解を深めてもらう狙い。

同社はこれまで自社の取り組みを事例とした学習支援教材を中高生向けに提供してきた。最近では、新型コロナウイルス禍で校外学習の機会が減ったことを受けて、オンラインセミナーの開催を始めた。昨年から、オンラインセミナーについて募集を始めた。同社は、JICEが主催する「国際交流事業」の一環として、このセミナーを開催した。同社は、JICEが主催する「国際交流事業」の一環として、このセミナーを開催した。同社は、JICEが主催する「国際交流事業」の一環として、このセミナーを開催した。

同社は、JICEが主催する「国際交流事業」の一環として、このセミナーを開催した。同社は、JICEが主催する「国際交流事業」の一環として、このセミナーを開催した。同社は、JICEが主催する「国際交流事業」の一環として、このセミナーを開催した。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）